

体育科教育学専門領域

木原成一郎（広島大学大学院教育学研究科・教授）

1. あらまし（体育科教育学専門領域の成り立ち）

体育科教育学専門分科会（以後当分科会と略す）は、体育方法専門分科会から分離独立し、1978年12月の総会でその設立が承認された。この設立は、1978年度文部科学省科研費「体育科教育学研究—体育科教育の総合的研究—」をになった方々が、生涯スポーツの基礎を培う「学校体育」を研究対象とする体育科教育学構築を目指しておし進めたものであった。1979年に『体育科教育学研究』が発刊されるとともに、日本体育学会における研究発表が継続された。その後、『体育科教育学研究』は定期的に発行され、1995年の12巻1号からは、J-Stage上に最新号とバックナンバーが電子媒体で公開された。なお、日本体育学会が社団法人化されたことに伴い、2012年度より体育科教育学専門領域（以後当領域と略す）に名称が変更となった。

また、当分科会が中心となり、体育科教育学を固有の科学として確立する必要性と会員数の増加を背景として、独立学会の機運が盛り上がり、1993年8月の当分科会合宿研究会で「独立学会の設立」が議論され、1996年4月から日本体育科教育学会が設立された。その後、第1回大会以降第9回大会（2004年、信州大学）までは、独立した活動として、日本体育学会大会時にシンポジウムを開催した。そして、第10回大会（2015年、筑波大学）以降は日本体育学会大会と分離して学会大会を毎年1回開催し、課題研究、シンポジウム、ラウンドテーブル等を開催してきている。

2. 内外の研究動向

当領域は、2007年度以降、日本体育学会で発表内容を分類する「コード表」を「カリキュラム論」「教授・学習指導論」「体育教師教育論」「科学論・研究方法論」の4領域に整理し、研究の蓄積を行ってきた。そして、2011年12月に日本体育科教育学会編で『体育科教育学の現在』を創文企画より出版した。本書は、公募制をとり執筆者を募って編集された。その内容は国内外の最新の研究動向をレビューすることを主眼に置いたものであり、「体育科のカリキュラム論」に4編、「教授・学習指導論」に8編、「体育教師教育論」に4編（ただし1編は研究倫理上の問題により削除）、「体育科教育学の研究方法論」に4編の論文が掲載された。なお、同書の内容は岡出・友添・松田・近藤編の『新版 体育科教育学の現在』に引き継がれ、2015年以降も継続して出版されている。

3. 科学的知見の応用の状況

『体育科教育学の現在』の内容を見れば、我が国において数量的な分析や定性的で質的な分析という経験的な方法で実証的に研究された蓄積は、「教授・学習指導論」に多いことが分かる。それらの蓄積は様々な授業研究の成果として学会誌や商業誌で公開され、学校現場の授業改善や教材開発に応用されている。他方、「体育科のカリキュラム論」は諸外国のナショナル・カリキュラムの研究の紹介が多い。法的拘束力のあるナショナル・カリキュラムの法制度のもとで、我が国では教師によるカリキュラム開発の経験的研究の蓄積は多くはないが、制度レベルとは異なる学校レベルでのカリキュラム開発が着手されその知見が応用され始めている。また、「体育教師教育論」は海外の研究動向の紹介が中心であるが、近年目覚ましく研究が増加している領域であり、教員養成の改善から現職教育の開発に経験的な研究が拡大し知見が応用されてきている。

4. 学校体育や大学体育に活かすべき最新知見

「体育科教育学研究」には、ほぼ毎号に各運動領域、各学校種の授業研究や教師教育の成果が掲載され経験的な方法による実証的成果が報告されている。その多くは数量的な分析であるが、2015年開催の第10回学会大会の課題研究「授業研究の方法論の新しい展開」で、質的な「事例的研究」「教師の思考の認知科学的研究」「社会的な授業研究」の提案がなされ、定性的で質的な分析による研究成果も発表されるようになった。当領域は、研究成果の生産自体が学校等の現場の協力なしに生まれることはないし、その成果を現場の実践に行かすことが求められる特性を持つ。数量的な分析と、定性的で質的な分析のそれぞれの研究の特徴を踏まえて、授業改善や教師教育、カリキュラム開発の実践にそれらの知見が活用されることが求められる。

5. 若手研究者へのメッセージ

グローバル化による英語での研究成果の作成と業績可視化の圧力による論文の生産性の向上が求められるとともに、正規雇用の定員が減少し任期付きの非正規雇用が増加する中、当領域にも若手研究者の研究成果公表への適切な支援が求められている。「体育科教育学研究」のHPには、2003年の「投稿規定」の全面改定を機に「投稿の手引」と「投稿論文チェックリスト」を新たに作成し、論文投稿の詳細な手順を示した。さらに、『体育科教育学』(2015年9月、31巻2号)に「投稿者へのお願い」を掲載し、投稿の手続きに加え、論文の査読と掲載の過程で投稿者が注意すべき観点の明確化に努めている。

学校等の現場で生起する諸問題を捉え、その解決に貢献する研究知見を提供することを任務とする当領域への若手研究者の参加を心より期待しています。

6. 引用文献

- ・日本体育学会(2010)『日本体育学会 60年誌』。
- ・日本体育科教育学会編(2011)『体育科教育学の現在』創文企画。
- ・岡出美則・友添秀則・松田恵示・近藤智靖編(2015)『新版 体育科教育学の現在』創文企画。
- ・「課題研究2報告 授業研究の方法論の新しい展開」『体育科教育学研究』22(1),pp.65-70.

(2016年8月3日執筆)